



## 取扱説明書

# 国際VHFトランシーバー IC-M37J

この無線機を使用するには、総務省の無線局の免許が必要です。  
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。  
この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.



---

# はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。  
本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた国際VHFトランシーバーです。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

---

## 本製品の特長について

### ◎防水構造

本製品はIP57(防塵形と防浸形)\*の性能に対応できるように設計されています。  
(バッテリーパック、またはバッテリーケース、およびアンテナ、[SP/MIC]キャップ装着時に限る)

★「IP表記について」(P.iii)をご覧ください。

### ◎水に浮く無線機

本製品は付属品を装着している状態で、淡水、または海水に浮かびます。

- 弊社指定以外の付属品や別売品を装着した場合、沈む可能性があります。
- 水に浮いた状態が長時間つくと、無線機の充電端子がサビる原因になります。
- Float'n Flash機能を使用すると、無線機が水に浮いているあいだ、バックライトやLEDが点灯したり、アラームが鳴ったりします。

---

## 電波法上のご注意

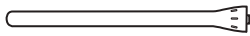
- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。  
分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で運用してください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎無線局免許の有効期間は、免許取得日から数えて5年間です。  
再免許の申請は、有効期間満了の6ヵ月前から3ヵ月前のあいだに手続きをしてください。

---

## 運用上のご注意

- ◎この無線機を使用するには、第三級海上特殊無線技士以上の資格が必要です。  
無資格など資格要件を満たさない人が使用すると、電波法違反で罰せられます。
- ◎この無線機を船舶以外で使用しないでください。  
本製品は、海上の船舶で使用するために認められている無線機です。  
陸上で使用すると電波法違反で罰せられます。
- ◎チャンネル16を聴取するようにしてください。
- ◎チャンネル16を一般通話には使用しないでください。  
チャンネル16は、遭難・安全/呼び出し専用の共通チャンネルです。  
また、指定されていないチャンネルで通信すると、電波法違反で罰せられます。

## 付属品について



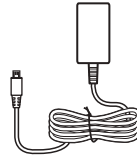
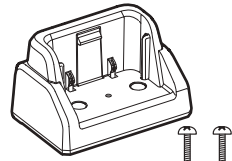
アンテナ



ハンドストラップ



ベルトクリップ

ACアダプター  
(BC-217S)バッテリーパック  
(BP-296)卓上充電器  
(BC-235)  
(ネジ2本を含む)

- 取扱説明書（本書）
- 申請書類一式
- 保証書

### 使用後はリサイクルへ



この製品は充電式電池使用機器です。

希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人 JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <http://www.jbrc.com/>

## ユーザー登録について

インターネットから、<http://www.icom.co.jp/> にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

## 登録商標/著作権

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、デュアルワッチ、アクアクエイクは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中では、TM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

---

# はじめに

---

---

## 防塵/防水性能について

---

バッテリーパック(BP-296)、またはバッテリーケース(BP-297)、およびアンテナ、[SP/MIC]キャップを本製品に正しく取り付けられた状態で、IP57の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- ◎雨の中や、水滴が付着した状態、またはぬれた手でバッテリーパック、またはバッテリーケースやアンテナ、スピーカーマイクロホンを取り付けたり、はずしたりしたとき
- ◎海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等を無線機に付着させたまま放置したとき
- ◎落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- ◎長時間、高い水圧をかけたとき
- ◎蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- ◎「別売品の使用による防塵/防水性能について」(下記)に記載する別売品以外を使用したとき
- ◎無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷があるとき
- ◎ $-20^{\circ}\text{C}$ ~ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用したとき
- ◎薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクタ間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

---

## 別売品の使用による防塵/防水性能について

---

バッテリーパック(BP-296)、またはバッテリーケース(BP-297)、およびアンテナ(FA-SC59V)、スピーカーマイクロホン(HM-213)を無線機本体に装着することで、IP57の防塵/防水性能があります。

---

## IP表記について

---

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級に該当する数字の部分を「X」で表記します。

### 【本書で記載する保護の程度について】

- IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を $1\text{m}^3$ あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること
- IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

## 電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

### インバーター回路内蔵のおもな電子機器

- ◎LED照明器具
- ◎電磁調理器
- ◎給湯器
- ◎船舶に搭載された電子機器
- ◎太陽光発電装置

## 取り扱い上のご注意

- ◎本製品の故障、誤作動、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

## 海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、すぐに洗い流し、水分をふき取って十分に乾燥させてからご使用ください。

海水が付着したまま放置したり、使用したりすると、故障の原因になります。

※ バッテリーパック、アンテナ、[SP/MIC]キャップを無線機に正しく取り付けた状態で洗浄してください。

※ 常温の真水でやさしく洗い流してください。

※ ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

### ご注意

次の場合は防水性能を維持できませんので、弊社サポートセンターにご相談ください。

- ◎ 無線機本体、[SP/MIC]キャップが破損している場合
- ◎ 無線機を落下させたり、衝撃を与えたりした場合

## 非常時の運用について

救助が必要な非常時には、下記のようにDISTRESSコール(遭難信号)を送信します。

### チャンネル16で送信する場合

1. MAYDAY(または遭難) 3回
2. THIS IS(こちらは) 1回
3. 遭難船舶局の呼出名称(または呼出符号)、その他の識別表示 3回
4. 遭難した船舶の位置、遭難の種類および求める救助の種類、その他救助を容易にするための事項を伝えます。

# 安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の「△危険」、「△警告」、「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎ お読みになったあとは、いつでも読める場所へ保管してください。

## △危険

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

## △警告

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

## △注意

これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

### 免責事項について

地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

## ■共通

### △警告

- ◎ 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常がある場合は、使用しないでください。  
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。  
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ◎ 分解や改造は、絶対にしないでください。  
また、ご自分で修理しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。  
感電やけがの原因になります。

### △注意

- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。  
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。  
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ 湿気やホコリの多い場所に置かないでください。  
故障の原因になることがあります。
- ◎ 直射日光の当たる場所や空調機器の吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。  
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

## ■無線機本体について

### △危険

- ◎引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。  
引火、火災、爆発の原因になります。

### △警告

- ◎指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。  
本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。
- ◎電子機器の近くでは絶対に使用しないでください。  
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- ◎アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続したりしないでください。  
感電、故障の原因になります。
- ◎大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。  
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

### △注意

- ◎アンテナに無理な力を加えないでください。  
変形や破損の原因になることがあります。
- ◎針金などの細い棒でスピーカー部の穴に触れないでください。  
故障の原因になることがあります。
- ◎ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。  
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎本製品の上に乗ったり、ものを置いたりしないでください。  
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ $-20^{\circ}\text{C}$ ～ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では使用しないでください。  
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。
- ◎強い磁界や静電気の発生する場所では使用しないでください。  
故障の原因になることがあります。
- ◎本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。  
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎指定以外の別売品を使用しないでください。  
故障の原因になることがあります。
- ◎ハンドストラップやベルトクリップは確実に取り付けてください。  
落下によるけが、本製品の破損の原因になることがあります。
- ◎電気・電子機器の動作に障害を与える場合は、送信しないでください。  
テレビやラジオなどに受信障害を与えたり、プレーカーなどの機器が誤動作したりする原因になることがあります。
- ◎各コネクター部に金属片やゴミを付着させないでください。  
ショートして発火の原因になることがあります。

# 安全上のご注意

## ■バッテリーパックについて

### △危険

- ◎ 次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。
- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 金属類(針金、ネックレス、鍵など)や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および本製品の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の機器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。

バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発熱、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。
- ◎ コンクリートなどのかたい床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。

外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 火の中に投入したり、加熱したりしないでください。

バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

### △警告

- ◎ 満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。

過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ 使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱しているなど、異常と感じたときは、使用を中止してください。

使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- ◎ 電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。

破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。

バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。

皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎ バッテリーパックは、ぬれた状態で本製品や充電器に装着しないでください。


本製品や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着すると、故障の原因になります。
- ◎ 指定の充電時間以上、充電しないでください。

指定の充電時間を経過しても充電が完了しないときは、ただちに充電を中止してください。

破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。



## △注意

- ◎ 次の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
  - 本製品を使用しないときは、必ず電源を切ってください。
  - $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用しないでください。
  - 寒い屋外や冷えた状態で充電しないでください。
  - $15^{\circ}\text{C} \sim 40^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で充電しないでください。
  - バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
- 長期間バッテリーパックを保管する場合は、 (残量あり)の状態を表示 (P.4) するまで使用して、本製品から取りはずし、次の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
- 約1ヵ月： $-20 \sim +50^{\circ}\text{C}$   
約3ヵ月： $-20 \sim +40^{\circ}\text{C}$   
約1年： $-20 \sim +20^{\circ}\text{C}$

## ■充電器について

### △危険

- ◎ 次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。
- 弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
- 充電器(付属品:BC-235)とACアダプター(付属品:BC-217S)は、本製品の充電以外に使用しないでください。

### △警告

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
- ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器には絶対に触れないでください。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。  
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるんだりするときは使用しないでください。

### △注意

- ◎ 次の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- $15^{\circ}\text{C} \sim 40^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で充電しないでください。
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- ACアダプターの根元を持って抜き差ししてください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプター、または充電器のDCジャックからケーブルを抜いてください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所で充電しないでください。

# 安全上のご注意

## ■バッテリーケースについて

### △危険

- ◎ 次の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。
- バッテリーケースの電池端子間をショートさせないでください。
- 金属類（針金、ネックレス、鍵など）や導電性のあるものをバッテリーケースの上に放置したり、バッテリーケースといっしょに持ち運んだりしないでください。
- BP-297(別売品)は、単4形アルカリ乾電池専用のバッテリーケースです。単4形アルカリ乾電池以外の電池を入れないでください。
- 充電しないでください。
- ハンダ付けしないでください。
- 火やストーブのそば、炎天下など、高温になる場所での使用、または放置をしないでください。
- 長時間使用しない場合は、液もれのおそれがありますので、単4形アルカリ乾電池を取りはずしてください。また、電池のアルカリ液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触れたりしないでください。失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 被覆が傷ついたり、はがれたりした単4形アルカリ乾電池を使用しないでください。

### △警告

- ◎ 次の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。
- テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。単4形アルカリ乾電池から、ガスが発生することがあります。
- 分解や改造をしないでください。
- 水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。また、種類の異なる電池を混ぜたり、新しい電池と古い電池を混ぜたりして使用しないでください。

## はじめに ..... i

■ 本製品の特長について .....	i
■ 電波法上のご注意 .....	i
■ 運用上のご注意 .....	i
■ 付属品について .....	ii
■ ユーザー登録について .....	ii
■ 登録商標/著作権 .....	ii
■ 防塵/防水性能について .....	iii
■ 別売品の使用による防塵/防水性能について ..	iii
■ IP表記について .....	iii
■ 電磁ノイズについて .....	iv
■ 取り扱い上のご注意 .....	iv
■ 海水が付着したときは？ .....	iv
■ 非常時の運用について .....	iv

## 安全上のご注意 ..... v

■ 共通 .....	v
■ 無線機本体について .....	vi
■ バッテリーパックについて .....	vii
■ 充電器について .....	viii
■ バッテリーケースについて .....	ix

## 1 ご使用の前に ..... 1

■ アンテナの取り付けかた .....	1
■ ハンドストラップの取り付けかた .....	1
■ ベルトクリップの取り付けかた .....	1
■ バッテリーパックの取り付けかた .....	2

## 2 各部の名称と機能 ..... 3

■ 前面/側面パネル .....	3
■ 表示部 .....	4

## 3 充電について ..... 5

■ バッテリーパックの特性と寿命について ..	5
■ バッテリーパックの膨らみについて .....	5
■ バッテリーパックについて .....	5
■ 卓上充電器について .....	6
■ バッテリーケースについて .....	7

## 4 基本操作 ..... 8

■ チャンネルの選択 .....	8
■ 受信と送信 .....	9
■ 音量調整 .....	10
■ スケルチレベル調整 .....	10
■ 最大音量機能 .....	10
■ ミュート機能 .....	10
■ モニター機能 .....	11
■ ロック機能 .....	11
■ コールチャンネルの設定 .....	11
■ アクアクェイク機能 .....	12
■ 電源OFF時のサブ機能 .....	12
■ チャンネル履歴機能 .....	12

## 5 スキャン操作 ..... 13

■ スキャンについて .....	13
■ フェイバリットチャンネル .....	14
■ スキャン操作のしかた .....	14

## 6 デュアルワッチ/トライワッチ ..... 15

■ 概要 .....	15
■ 操作 .....	15

## 7 セットモード ..... 16

■ セットモードについて .....	16
■ 設定項目について .....	17

## 8 別売品一覧 ..... 19

■ 別売品についてのご注意 .....	19
■ 別売品一覧 .....	19
■ スピーカーマイクロホンについて .....	20

## 9 定格 ..... 21

■ 一般仕様 .....	21
■ 送信部 .....	21
■ 受信部 .....	21

## 10 チャンネルリスト ..... 22

## 11 困ったときは ..... 23

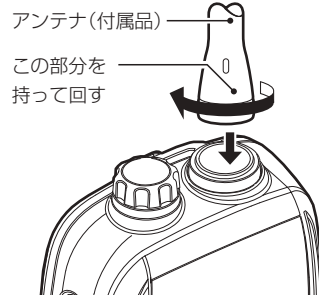
■ トラブルシューティング .....	23
■ アフターサービスについて .....	24

## ■アンテナの取り付けかた

取り付けるときは、アンテナの根元を持って時計回りに、手で締まる程度まで回します。  
取りはずすときは、アンテナの根元を持って反時計回りに回します。

### △警告

- ◎ アンテナを持って本製品を持ち運ばないでください。
- ◎ アンテナを接続しないで送信すると、故障の原因になります。

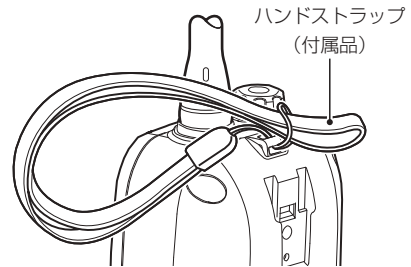


## ■ハンドストラップの取り付けかた

運用時や持ち運ぶときに、ハンドストラップを手首に通しておくこと、落としたりしないで安全です。

### △警告

- アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。  
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

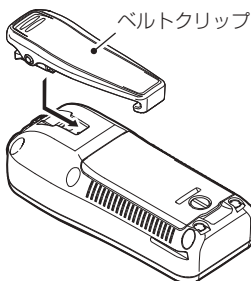


## ■ベルトクリップの取り付けかた

取り付けるときは、図のように「カチッ」と鳴るまで差し込んでください。

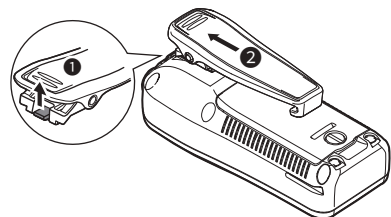
取りはずすときは、レバーを①の方向に押しながら、ベルトクリップを②の方向にスライドさせてください。

取り付けるとき



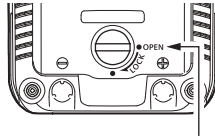
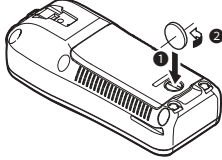
取りはずすとき

指や爪をいためないようにご注意ください。

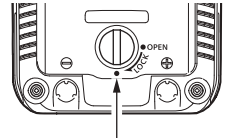


## ■バッテリーパックの取り付けかた

1. ストッパーを反時計回りに90度回転させます。  
※ 指や爪をいためないように、コインやドライバーなどを使ってストッパーを回転させてください。

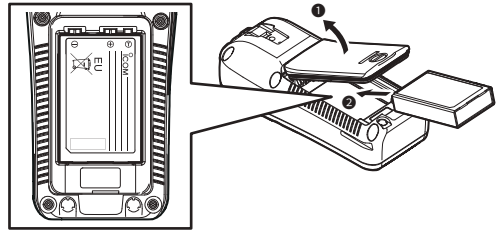


取りはずすときの  
ストッパーの位置



取り付けたときの  
ストッパーの位置

2. バッテリーカバーをはずして、バッテリーパックを本体に密着させながら、②の方向にスライドさせます。
3. バッテリーカバーを取り付けます。



### △警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、取り付けたり、取りはずしたりしないでください。

※ 本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因となります。

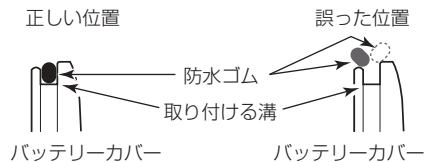
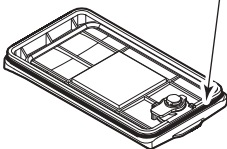
### ご注意

◎ 取り付けや取りはずしをするときは、指や爪をいためないように、コインやドライバーなどを使ってストッパーを回転させてください。

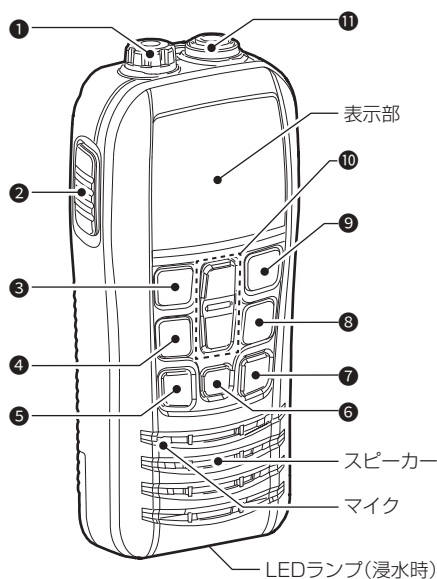
◎ バッテリーカバーを取り付けるとき、防水ゴムがずれていないか確認してください。

防水ゴムがずれたまま、カバーを取り付けると、防水ゴムが破損するおそれがあります。防水ゴムが破損すると、防塵/防水性能を維持できません。

バッテリーカバーを取り付ける前に、ゴミなどが防水ゴムに付着していないか、防水ゴムが溝からずれていないかを確認してください。上記の内容に該当する場合は、防水性能を維持できません。



## ■前面/側面パネル



短押し 短く押す

長押し 1秒以上押す

① スピーカー・マイクロホンコネクター  
[SP/MIC] (P.20)

別売品の外部スピーカー・マイクロホンを取り付けるコネクター

## ② PTT(送信)スイッチ [PTT] (P.9)

押しているあいだは送信状態、はなすと受信状態

## ③ チャンネル16キー [16/C] (P.8)

短押し チャンネル16の選択

長押し コールチャンネルの選択

④ 音量・スケルチ/モニターキー  
[VOL/SQL]/[MONI]

短押し 音量調整モード⇒スケルチ調整モード⇒チャンネル選択モード (P.10)

長押し モニター機能動作 (P.11)

## ⑤ SCAN(スキャン)/DUAL(デュアル)キー [SCAN]/[DUAL]

短押し スキャンの開始/停止 (P.14)

長押し デュアルワッチ、またはトライワッチの開始 (P.15)

※もう一度短く押すと、機能を解除します。

※ [SCAN] と [Hi/Lo] を同時に押しつづけると、アクアケイク機能が動作します。(P.12)

## ⑥ 電源キー [ON/OFF]

長押し 電源のON/OFF

## ⑦ 送信出力/ロックキー [Hi/Lo]/[L/O]

短押し 送信出力(High/Low)の切り替え

長押し ロック機能のON/OFF (P.11)

⑧ チャンネル/ウェザーチャンネルキー  
[CH/WX]/[U/I/C]

短押し ウェザーチャンネル⇄国際チャンネルグループ (P.8)

※チャンネル16、またはコールチャンネルを選択したあとにこのキーを短く押すと、元のチャンネルに戻ります。

⑨ フェイバリットキー [FAV]/[★]  
(P.14)

短押し フェイバリット(スキャン対象)チャンネルの選択

長押し 表示されているチャンネルのフェイバリット設定/解除

## ⑩ アップ/ダウンキー [▲]/[▼]

◎ 運用チャンネル選択

◎ スケルチレベル調整(スケルチ調整モード時)

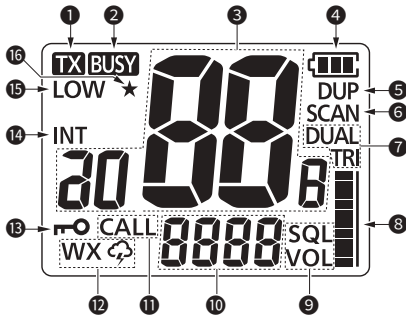
◎ 音量レベル調整(音量調整モード時)

◎ 設定値の変更(セットモード時)

## ⑪ アンテナコネクター

付属のアンテナを接続するコネクター

## ■表示部



## ① 送信表示

送信時

## ② 受信表示

受信時、またはスケルチオープン時

## ③ チャンネル番号表示

運用中のチャンネル番号

## ④ 電池残量表示

バッテリーパック/バッテリーケースの残量(4段階)

表示	状態
	十分
	残量あり
	残量少
	残量なし

## ⑤ デュプレックス表示

デュプレックスチャンネル選択時

## ⑥ スキャン表示(P.13)

スキャン中(点滅)

## ⑦ デュアルワッチ/トライワッチ表示(P.15)

DUAL : デュアルワッチ中(点滅)

TRI : トライワッチ中(点滅)

## ⑧ 音量レベル/スケルチレベル表示

音量レベル、またはスケルチレベル

## ⑨ 音量調整/スケルチ調整表示

SQL : スケルチ調整モード(点滅)

VOL : 音量調整モード(点滅)

## ⑩ サブチャンネル表示

◎ スケルチレベル(スケルチ調整モード時)

◎ 音量レベル(音量調整モード時)

◎ チャンネル16(プライオリティースキャン、デュアルワッチ、トライワッチ中)

◎ 設定項目(セットモード時)

## ⑪ コールチャンネル表示(P.8)

コールチャンネル選択時

## ⑫ ウェザーチャンネル表示(P.8)

WX : ウェザーチャンネル選択時

: ウェザーアラート機能ON時

## ⑬ ロック表示(P.11)

ロック機能ON時

## ⑭ チャンネルグループ表示(P.8)

国際チャンネルグループ選択時

## ⑮ 送信出力表示

Lowパワー選択時

※ Highパワー選択時は表示されません。

※ 高温や低電圧が原因で強制的にLowパワー状態に切り替わると、「LOW」が点滅します。

## ⑯ フェイバリットチャンネル表示(P.14)

フェイバリットチャンネル選択時

**△危険**

- ◎ 充電するときは、必ず本製品に対応した充電器(弊社ホームページに掲載)をご使用ください。
- ◎ 指定以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。
- ◎ 「安全上のご注意」(P.viii)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

**■バッテリーパックの特性と寿命について**

- ◎ バッテリーパックは、消耗品です。  
充電できる回数は、300回～500回が目安です。
- ◎ 使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。
- ◎ 劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。
- ◎ 充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。  
無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換をおすすめします。

**■バッテリーパックの膨らみについて**

このような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

- ◎ ひんぱんに充電している
- ◎ 満充電直後でも再充電している
- ◎ 高温な場所で使用・保管している
- ◎ 本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

**■バッテリーパックについて****BP-296 バッテリーパック(付属品)**

- ◎ 種類：リチウムイオン
- ◎ 容量：2200mAh(min.)/2350mAh(typ.)
- ◎ 出力電圧：3.6V
- ◎ 充電時間：約4時間(付属品：BC-235)
- ◎ 運用時間：約12時間(パワーセーブON時、送信5：受信5：待ち受け90で運用)

※ バッテリーパックの消耗程度により、実際の充電、および運用時間は異なります。

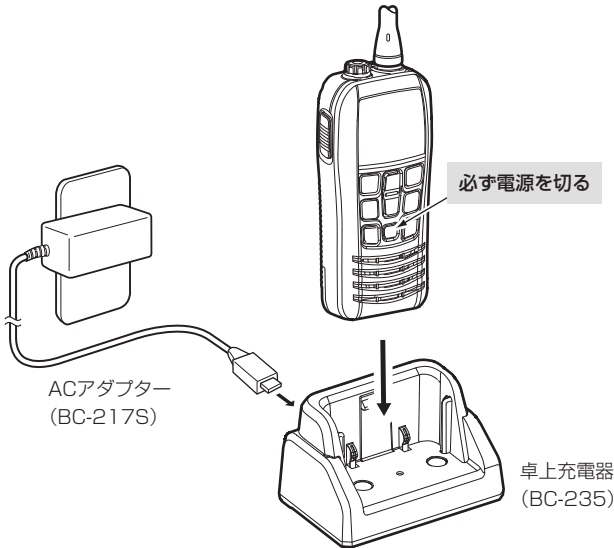
※ バッテリーパックは無線機本体に装着することで、IP57の防塵/防水性能があります。

※ バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。



## ■卓上充電器について

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してからご使用ください。



- ◎ 充電するときは、必ず電源をお切りください。  
※電源を入れたままで充電すると、正常に充電できません。
- ◎ 充電中は、「**[CHG]**」が表示され、充電が完了すると「**[FL]**」が表示されます。  
※エラー（「**[Er]**」と「**[CHG]**」）が表示される場合は、無線機を充電器に差し込みなおしてください。
- ◎ 充電時間は約4時間です。  
※バッテリーパックの消耗程度により異なります。
- ◎ 船舶の振動などで充電が途切れないように、卓上充電器から無線機がはずれにくい構造になっています。  
はずすときは、無線機を前方に傾けながら取りはずしてください。
- ◎ バッテリーパックは、継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。  
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- ◎ 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にご確認ください。

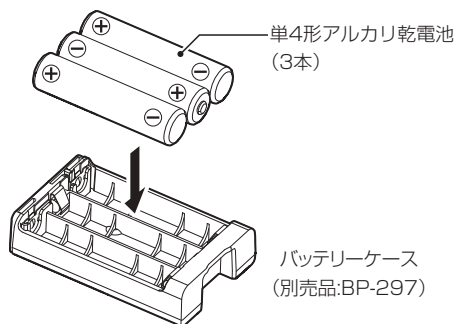


### 3 充電について

#### ■バッテリーケースについて

バッテリーケース(別売品:BP-297)のフタを開け、単4形アルカリ乾電池(3本)を入れます。

※ 単4形アルカリ乾電池の極性(プラスとマイナス)を間違えないように入れてください。



#### △危険

下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

◎ バッテリーケースは、単4形アルカリ乾電池専用です。

マンガン乾電池や単4形の充電式電池は、使用しないでください。

◎ 充電しないでください。

#### △注意

バッテリーケースを使用しないときは、バッテリーケースからアルカリ乾電池を取りはずして保管してください。

◎ バッテリーケース使用時は、送信出力が1Wに制限されます。

◎ バッテリーケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電源が切れます。

◎ バッテリーケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

◎ アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

◎ 運用時間は、約5時間(送信出力1W/送信5：受信5：待ち受け90で運用)です。

※ 使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、運用時間が異なることがあります。

◎ バッテリーケースを装着した場合でも、本製品は浮かびます。

ただし、取り付けるアルカリ乾電池の種類によって重さが異なり、本製品が沈む可能性がありますのでご注意ください。

◎ 表示全体が一瞬消えたり、表示が全体的に薄くなったりすると、電池の交換時期です。

このようなときは、3本とも新しい単4形アルカリ乾電池と交換してください。

#### ご参考


◎ バッテリーケースは、本製品に装着することで、IP57の防塵/防水性能があります。

◎ アルカリ乾電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。

◎ 寒冷地では、バッテリーケースの部分を十分に保温しながらご使用ください。

## ■チャンネルの選択

### ◇チャンネルを選択するには

- [CH/WX]を短く押すごとに、ウェザーチャンネルと国際チャンネルグループを切り替えます。
  - 国際チャンネルグループ選択時、「INT」が表示されます。
  - ウェザーチャンネル選択時、「WX」が表示されます。
  - ウェザーアラート機能ON時、「WX」が表示されます。(P.17)
- [▲]/[▼]を押して、チャンネルを選択します。

#### ウェザーチャンネル

米国、およびカナダにおいて、NOAA(米国海洋大気庁)放送からのウェザーチャンネルを受信するために使用します。

ウェザーアラート機能ON時は、選択したウェザーチャンネルで気象警報放送がはじまると、自動的にウェザーチャンネルに切り替わるため、別のチャンネルで待ち受け中やスキャン中でも重要な気象警報を聞き逃すことを防止できます。

※ 日本の海域、および近海では受信できません。

### ◇チャンネル16

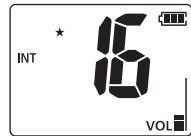
チャンネル16は、遭難、および安全信号チャンネルです。

このチャンネルは、ほかの局との初期通信を確立するため、また緊急連絡に使用します。そのため、待ち受け中も聴守する必要があります。

チャンネル16は、デュアルワッチ、およびトライワッチの対象で、動作時に信号の有無を確認します。(P.15)

[16/C]を短く押すと、チャンネル16になります。

※ [CH/WX]を短く押すと、チャンネル16を選択する前の状態に戻ります。



### ◇コールチャンネル

チャンネル16とは別に、よく使用するチャンネルをコールチャンネルに設定しておくと、簡単に呼び出せます。

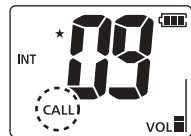
このコールチャンネルは、トライワッチの対象となります。

出荷時はチャンネル16を設定していますが、お好みのチャンネルに変更できます。(P.11)

[16/C]を長く(約1秒)押すと、コールチャンネルを選択します。

• 「CALL」とコールチャンネル番号が表示されます。

※ [CH/WX]を短く押すと、コールチャンネルを選択する前の状態に戻ります。



## 4 基本操作

### ■受信と送信

#### △警告

本製品にアンテナを接続していないときは、絶対に送信しないでください。

1. [▲]/[▼]を押して、運用するチャンネルを選択します。  
※ 信号を受信すると「**BUSY**」が表示され、スピーカーから音声が聞こえます。
2. [PTT]を押しながら、マイクに向かって話します。  
• 送信状態になり、「**TX**」が表示されます。
3. [PTT]をはなすと、受信状態に戻ります。

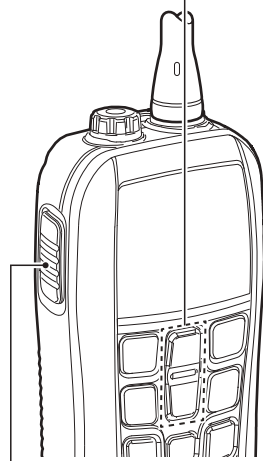
#### マイクの使いかた

マイクと口元は約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクを口に近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

#### ご注意

- ◎ 電池の電流消費を抑えるために、信号を受信しない状態が5秒つづくと、パワーセーブ機能が動作します。
- ◎ 送信の連続時間を制限するタイムアウトタイマー機能を搭載しています。  
送信時間を監視し、5分連続して送信状態がつづいた場合、タイムアウト機能が動作し、強制的に送信を停止します。



- ① チャンネルを選択します。
- ② [PTT]を押して送信します。
- ③ 手をはなして受信します。

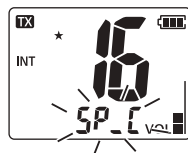
### ◇スピーカーライン切替機能

別売品の外部スピーカーマイクロホンを接続していない場合、内蔵スピーカーをマイクとして使用できます。

※ 無線機が水に浮いたとき、スピーカーを自動でマイクに切り替える機能を設定できます。(P.18)

[PTT]を押しているあいだに[VOL/SQL]を短く押して、スピーカーライン切替機能をON/OFFします。

- スピーカーライン切替機能ON時、[PTT]を押すと「**SP\_C**」表示が点滅します。



## ■音量調整

1. [VOL/SQL]を1回押して、音量調整モードに入ります。
  - 「VOL」表示が点滅します。
2. [▲]/[▼]を押して、音量を調整します。
3. [VOL/SQL]を2回押すと、音量調整モードが解除されます。



## ■スケルチレベル調整

信号を正しく受信したり、スキャンを効率よく動作させたりするために、スケルチを適切なレベルに調整しておく必要があります。

1. [VOL/SQL]を2回押して、スケルチ調整モードに入ります。
  - 「SQL」表示が点滅します。
2. [▲]/[▼]を押して、スケルチレベルを調整します。
3. [VOL/SQL]を1回押すと、スケルチ調整モードが解除されます。



## ■最大音量機能

音量を瞬時に最大に上げる機能です。

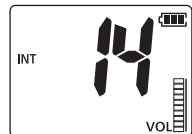
※ 音量が30に設定されているとき、この機能は動作しません。

### △警告

聴力障害の原因になりますので、最大音量機能を使用するときは、耳から無線機、またはスピーカーマイクロホン(別売品)のスピーカー部をはなしてください。

[VOL/SQL]を押しているあいだに、[▲]を押します。

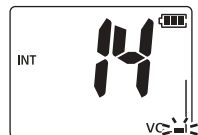
- 音量が最大に設定されます。
  - 音量レベル表示バーは段階的に点灯します。
- ※ もう一度[VOL/SQL]と[▲]を押すと、最大音量機能が解除されます。



## ■ミュート機能

[VOL/SQL]を押しているあいだに、[▼]を押します。

- 音量が「OFF」に設定されます。
  - 音量レベル表示バーが点滅します。
- ※ もう一度[VOL/SQL]と[▼]を押すと、ミュート機能が解除されます。



## 4 基本操作

### ■モニター機能

通話中に相手局の信号が弱く、音声が入り切れたり、聞こえにくかったりする場合、スケルチを強制的に開いて、聞き取りやすくする機能です。

[MONI]を長く(約1秒)押すと、モニター機能が動作します。


- 「BUSY」表示が点滅します。

※ セットモードでモニター機能の動作を設定します。(P.17)

### ■ロック機能

不用意にキーを押しても、運用チャンネルなどの運用状態が変わらないように、キー操作を無効にする機能です。

※ ロック中でも、[PTT]、[P]、[Hi/Lo]、[]、[VOL/SQL]、[MONI]は操作できます。

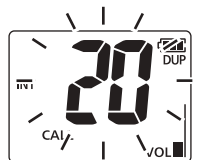
[]を長く(約1秒)押すごとに、ロック機能をON/OFFします。

### ■コールチャンネルの設定

出荷時、コールチャンネルは、チャンネル16に設定されています。

簡単に呼び出しができるように、よく使用するチャンネルをコールチャンネルに設定できます。

1. [16/C]を長く(約1秒)押して、コールチャンネルを選択します。
  - 「CALL」とコールチャンネル番号が表示されます。
2. [16/C]を長く(ピー、ピピッと鳴るまで)押します。
  - チャンネル番号が点滅します。
3. [▲]/[▼]を押して、コールチャンネルに設定するチャンネルを選択します。
4. [16/C]を短く押します。
  - 選択したチャンネルがコールチャンネルに設定されます。
  - チャンネル番号の点滅が停止します。



## ■アクアケイク機能

スピーカー部分に溜まった水をスピーカーの振動により排出する機能です。

スピーカー部分の浸水による音のこもりや音量低下を解消できます。

※ 別売品のスピーカーマイクロホンを接続しているときは、アクアケイク機能は動作しません。

- [SCAN]と[Hi/Lo]を同時に長く押します。
  - ・「**FAV**」が表示され、排水のため低い音が約10秒鳴りつづけます。
  - ※ 音量設定に関わらず、最大音量で鳴ります。
- ほかのキーを押すと、アクアケイク機能が停止します。

## ■電源OFF時のサブ機能

無線機の電源がOFFのときに、特定のキーを押すと使用できる機能です。

※ ロック中でも使用できます。

- 無線機の電源を切ります。
- 使用したい機能に対応したキーを長く押します。

モード	キー	機能
ライト	[VOL/SQL]	無線機の画面とキーのバックライトが点灯します。
緊急	[SCAN]	アラームが最大音量で鳴ります。
電圧表示	[FAV]	バッテリーの電圧を確認できます。 ※ 3.60Vの場合、「3_60」と表示されます。 ※ バッテリーケースを使用しているときは、「AL」が表示されます。
ライト(点滅)	[Hi/Lo]	無線機の画面とキーのバックライトが点滅します。

・ キーを押しているあいだ、機能が動作します。

※ セットモードで延長時間を設定している場合、キーをはなしてから設定した時間が経過したあと、機能が停止します。(P.18)

※ ほかのキーを押しても、機能が停止します。

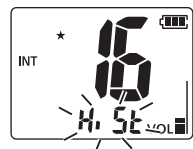
## ■チャンネル履歴機能

最後に使用したチャンネルをすばやく選択できます。

※ チャンネルグループごとに5チャンネル記憶できます。

※ 無線機の電源を切っても、チャンネル履歴は保存されます。

- [CH/WX]と[▼]を押して、チャンネル履歴選択モードに入ります。
  - ・ 「**H. 5**」表示が点滅します。
- [▼]を押して、チャンネルを選択します。



※ チャンネル履歴を削除したい場合は、[▼]を押しながら無線機の電源を入れてください。

## ■スキャンについて

スキャンとは、広範囲にわたってチャンネルを自動で切り替え、信号の出ているチャンネルを探し出す機能です。

また、待ち受け状態で便利なウェザーアラート機能やオートスキャン機能も使用できます。これらの機能はセットモードの設定により、同時に運用できます。(P.17)

### スキャン操作の前に

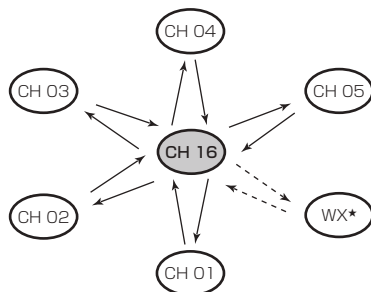
- ◎ フェイバリット(スキャン対象)チャンネルを設定してください。
- ◎ スキャンの種類(ノーマルスキャン、またはプライオリティースキャン)をセットモードで選択してください。(P.17)

### プライオリティースキャン

チャンネル16の信号の有無を確認しながら、すべてのフェイバリットチャンネルを順にスキャンします。

また、チャンネル16で信号を検出すると、信号が消えるまでスキャンを一時停止します。チャンネル16以外のチャンネルで信号が検出されると、その信号が消えるまでスキャンはデュアルワッチになります。

- ★ ウェザーアラート機能ON時、最後に選択したウェザーチャンネルもスキャンします。

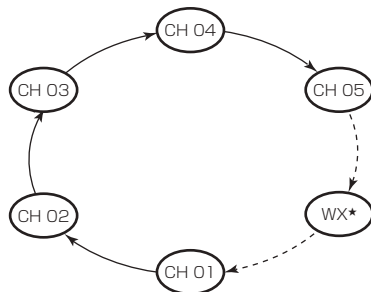


### ノーマルスキャン

プライオリティースキャンと同様、すべてのフェイバリットチャンネルを順にスキャンします。

ただし、プライオリティースキャンと異なりチャンネル16をフェイバリットチャンネルに設定していないと、チャンネル16がスキャンされないため、ご注意ください。

- ★ ウェザーアラート機能ON時、最後に選択したウェザーチャンネルもスキャンします。





## ■フェイバリットチャンネル

本製品のスキャン機能は、フェイバリットチャンネルだけをスキャンして、そのほかのチャンネルはスキップします。

スキャンに必要なないチャンネルのフェイバリット設定を解除することで、スキャンの対象からはずせます。

### ◇設定/解除

1. [▲]/[▼]を押して、チャンネルを選択します。
2. [FAV]を長く(約1秒)押しすごとに、フェイバリット設定をON/OFFします。
  - ・フェイバリットチャンネルには、「★」が表示されます。

#### フェイバリットチャンネルの一括設定/解除

[FAV]を押しながら電源を入れると、チャンネルグループ内の全チャンネルのフェイバリット設定が一括解除されます。

※ フェイバリットチャンネルがない場合、全チャンネルが一括でフェイバリットチャンネルに設定されます。

### ◇フェイバリットチャンネルの選択

[FAV]を短く押すと、フェイバリットチャンネルだけを選択できます。

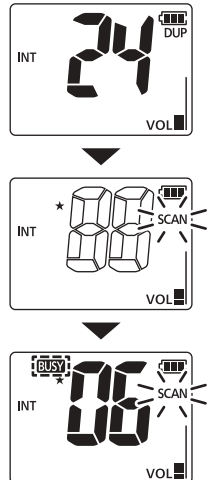
※ フェイバリットチャンネル以外のチャンネルは、表示されません。

## ■スキャン操作のしかた

1. [SCAN]を短く押して、スキャンを開始します。
  - ・「SCAN」表示が点滅します。
  - ・プライオリティスキャン中は、「16」が表示されます。
  - ・信号を検出すると、「BUSY」が表示されます。

※ 信号を検出すると、スキャン再スタートタイマーの設定により、その信号が消えるまでスキャンを一時停止、または5秒停止後、再開します。(P.17)

※ プライオリティスキャン中にチャンネル16で信号を検出すると、ピープ音が2回鳴り、「16」表示が点滅します。
2. もう一度[SCAN]を押すと、スキャンを停止します。



#### ご参考

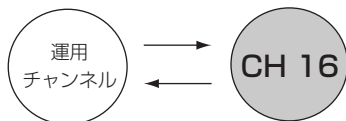
信号を正しく受信したり、スキャンを効率よく動作させたりするために、スケルチを適切なレベルに調整してください。(P.10)

## ■概要

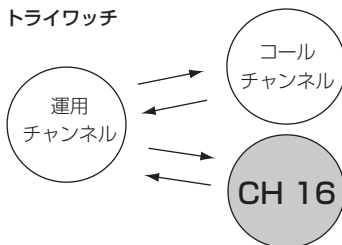
デュアルワッチは、チャンネル16以外のチャンネルを受信しながら、チャンネル16の信号の有無を確認します。

トライワッチは、別のチャンネルを受信しながら、チャンネル16とコールチャンネルを確認します。

デュアルワッチ



トライワッチ



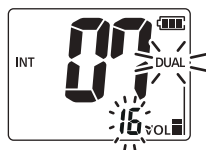
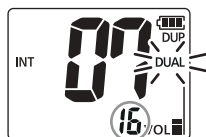
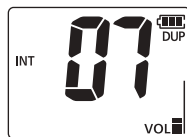
※チャンネル16で信号を受信した場合、その信号がなくなるまでチャンネル16でデュアルワッチ/トライワッチは一時停止します。

※トライワッチ中にコールチャンネルで信号を受信した場合、その信号が消えるまでトライワッチは、チャンネル16とコールチャンネルとのデュアルワッチになります。

※デュアルワッチ/トライワッチ中に選択したチャンネルを使って送信するときは、[PTT]を押します。

## ■操作

1. セットモードでデュアルワッチ、またはトライワッチを選択します。(P.17)
2. [▲]/[▼]を押して、チャンネルを選択します。
3. [DUAL]を長く(約1秒)押すと、デュアルワッチ、またはトライワッチを開始します。
  - デュアルワッチ中は「DUAL」表示、トライワッチ中は「TRI」表示が点滅します。
  - コールチャンネルで信号を受信すると、「CALL」が表示されます。  
※チャンネル16で信号を受信すると、ピーブ音が鳴ります。
4. もう一度[DUAL]を押すと、デュアルワッチ、またはトライワッチを解除します。



## ■セットモードについて

セットモードでは、本製品の各機能をお好みの状態に設定、または変更できます。

### 設定のしかた

- [VOL/SQL]を押しながら、[ON]を長く押しします。
  - ・「BEEP」(ビープ音設定画面)が表示されます。
  - ※ 無線機の電源が切れているときは、[VOL/SQL]を押しながら1秒以内に電源を入れると、セットモードに入ります。
- [VOL/SQL]を押して、設定する項目を選択します。
  - ※ [VOL/SQL]を押しながら[▲]/[▼]を押しても、設定する項目を選択できます。
- [▲]/[▼]を押して、設定値を選択します。
- [16/C]を押して、セットモードを解除します。

ビープ音(起動画面) 	ウェザーアラート 	プライオリティースキャン 
スキャン再スタートタイマー 	オートスキャン 	デュアル/トライワッチ 
モニター 	バックライト 	LCDコントラスト 
パワーセーブ 	チャンネル表示 	Float'n Flash 
Float'n Flashアラーム 	Float'n Flashパワーセーブ 	ローバッテリーアラーム 
サブ機能延長時間 	自動スピーカーライン切替 	

## 7 セットモード

### ■設定項目について

#### ビーブ音 *bEEP*

キーを押したときに鳴る操作音を選択します。

- OFF: 音を鳴らさない
- ON: 音を鳴らす

#### ウェザーアラート *ALrt*

気象警報トーンを検出する機能です。

NOAA放送局は、重要な気象情報を流す前に、気象警報トーンを送信します。

待機中、パワーセーブ機能動作中、またはスキャン中は随時、先に選択されたウェザーチャンネルを調べます。

- OFF: ウェザーアラート機能を使用しない
- ON: ウェザーアラート機能を使用する

#### プライオリティースキャン *Pr\_i o*

チャンネル16を確認しながら、すべてのフェイバリットチャンネルをスキャンする機能です。(P.13)

- OFF: ノーマルスキャンに設定する  
※選択したチャンネルグループ内のすべてのフェイバリットチャンネルをスキャンします。
- ON: プライオリティースキャンに設定する

#### スキャン再スタートタイマー *S\_t i*

スキャン再スタートの条件(タイマー)を設定します。

- OFF: 受信した信号が消えるまでスキャンを一時停止し、信号が消えるとスキャンを再開する
- ON: 信号を受信すると、約5秒停止したあとスキャンを再開する

#### オートスキャン *Aut o*

自動的にスキャンを開始する機能を設定します。

- OFF: オートスキャン機能を使用しない
- ON: 無信号状態でキー操作が30秒以上ない場合に、自動的にスキャンを開始する

#### デュアルワッチ/トライワッチ *dt*

デュアルワッチ、またはトライワッチを選択します。(P.15)

- d-(Dual): デュアルワッチに設定する
- t-(Tri): トライワッチに設定する

#### モニター *SRLS*

モニター機能の動作を選択します。

- Pu(Push): [MONI]を押しているあいだだけスケルチが開く
- Ho(HOLD): [MONI]を押すごとに、スケルチが開いたり閉じたりする

#### バックライト *Al\_b l*

キー操作時、表示部やテンキーのバックライトを自動で点灯するかどうかを設定します。

夜間や暗い場所での使用に便利です。

- OFF: 点灯しない
- ON: [PTT]を除くキー操作をしたときに自動で点灯する

#### LCDコントラスト *Lcdc*

表示部のコントラストを設定します。

屋外でご使用になる場合、周囲の明るさに応じて設定すると、表示部が見やすくなります。

- Hi: Highに設定する
- Lo: Lowに設定する

#### パワーセーブ *P\_S R*

待ち受け状態で一定時間、本製品を操作しないあいだ、自動的に休止状態にして消費電流を抑える機能です。

- OFF: パワーセーブ機能を使用しない
- ON: 無信号状態で5秒以上キー操作がないとき、パワーセーブ機能を動作させる

### チャンネル表示 **[H\_1]**

チャンネル番号を表示するときの桁数を設定します。

- 3d : 3桁で表示する(例: 78A)
- 4d : 4桁で表示する(例: 1078)

### Float'n Flash **F\_LAS**

無線機が水に浮いているあいだ、バックライトやLEDを点滅させるかどうかを設定します。

※ 無線機の電源が切れていても動作します。

- OFF: 点灯しない
- ON : 無線機が水に浮いているあいだ、バックライトやLEDが自動で点滅する

### Float'n Flashアラーム **F\_RA**

無線機が水に浮いているあいだ、アラームを鳴らすかどうかを設定します。

※ 「Float'n Flash」を「ON」に設定しているときに使用できます。

※ 音量設定に関わらず、最大音量で鳴ります。

- OFF: アラームを鳴らさない
- ON : 無線機が水に浮いているとき、バックライトやLEDが点滅しているあいだアラームが鳴る

### Float'n Flashパワーセーブ **F\_PS**




無線機が水に浮いているあいだ、パワーセーブ機能を動作させるかどうかを設定します。

※ 「Float'n Flash」を「ON」に設定しているときに使用できます。

- OFF: パワーセーブ機能を使用しない
- ON : 無線機が水に浮いているあいだ、パワーセーブ機能が動作する

### ローバッテリーアラーム **Lb\_A**

バッテリー残量が少なくなったときに、アラームを鳴らすかどうかを設定します。

選択肢	アラーム間隔		
	 残量なし	 残量少	 残量あり
OFF	—		
1	30秒ごと	—	—
2		1分ごと	—
3			2分ごと

### サブ機能延長時間 **Sb\_t**

電源OFF時にサブ機能を使用したとき、キーをはなしたあと機能が停止するまでの時間を設定します。

※ サブ機能については、12ページをご覧ください。

- 選択肢: OFF、10、30、60秒

### 自動スピーカーライン切替 **SP\_C**

無線機が水に浮いたとき、内蔵スピーカーをマイクとして使用する機能を設定します。

※ 設定に関わらず、[PTT]を押しながら[VOL/SQL]を押すと、スピーカー切替機能をON/OFFできます。(P.9)

- OFF: 自動スピーカーライン切替機能を使用しない
- ON : 水に浮いたとき、自動でスピーカーをマイクに切り替える

### ■別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

### ■別売品一覧

★1 IP57の防塵/防水性能があります。

★2 本製品に付属のものと同じです。

上記、防塵/防水性能は、「IP表記について」(P.iii)をご覧ください。

#### バッテリー関連

- BP-296★1★2 : リチウムイオンバッテリーパック  
BC-235★2 : 卓上充電器 ※別売品のBC-217Sが必要です。  
BC-217S★2 : ACアダプター(BC-235用)  
BP-297★1 : バッテリーケース  
※単4形アルカリ乾電池(3本)を別途ご購入ください。

#### マイクロホン

- HM-213★1 : スピーカーマイクロホン

#### その他

- FA-SC59V★1★2 : アンテナ  
MB-133★2 : ベルトクリップ

## ■スピーカーマイクロホンについて

ワニ口クリップ

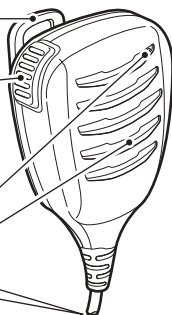
PTT(送信)スイッチ

押し続けているあいだは送信状態、  
はなすと受信状態になります。

マイク

スピーカー

無線機の電源を切ってから、スピーカー-  
マイクロホンを接続してください。



### マイクの使いかた

マイクは、本体の上部(頂上部)に内蔵されています。マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

### ご注意

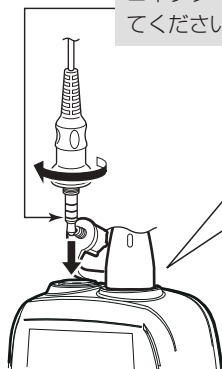
コネクターをぬらさないでください。

万一ぬれた場合は、十分に乾かしてから、無線機本体に取り付けてください。

## ◇取り付けかた

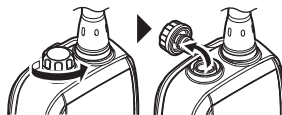
1. スピーカーマイクロホンを接続する前に、本製品の電源を切ります。
2. スピーカーマイクロホンのコネクターを[SP/MIC]端子に挿入し、コネクターを完全に締めて取り付けてください。  
※ 斜めになった状態でコネクターを締めないようにご注意ください。

コネクターの抜けや接続部の浸水を防ぐために、コネクターをしっかり締めてください。



### 取りはずしかた

[SP/MIC]キャップを反時計回りに回して、取りはずします。



### 取り付けかた

[SP/MIC]キャップをはめて、完全に締まるまで時計回りに回します。



### ご注意

スピーカーマイクロホンをご使用にならないときは、[SP/MIC]キャップをしっかり取り付けて、浸水しないようにしてください。

万一浸水すると、端子がサビたり、また無線機が正常に機能しなくなったりするおそれがあります。

## ■一般仕様

### 国際チャンネル(INT)

チャンネル数：64ch

送信周波数範囲：156.025～157.425MHz

受信周波数範囲：156.300～162.000MHz

### ウェザーチャンネル(WX)※受信のみ

チャンネル数：10ch(ウェザーチャンネル)

受信周波数範囲：161.650～163.275MHz

※ウェザーチャンネルは米国で運用されているサービスのため、日本の海域、および近海では受信できません。

電波型式：F3E

使用温度範囲：-20～+60℃

電源電圧：DC 3.7V(弊社指定のバッテリーパックに限る)

消費電流(3.7V時)：約2.6A(送信時：5W)

約1.0A(送信時：1W)

約400mA(受信最大出力時：内蔵スピーカー)

約200mA(受信最大出力時：外部スピーカー)

周波数安定度：±10ppm以内(-20～+60℃)

アンテナインピーダンス：50Ω(不平衡)

外形寸法：59.7(W)×140.5(H)×38.7(D)mm ※突起物を除く

重量：約293g ※バッテリーパック、アンテナ、ベルトクリップを含む

## ■送信部

送信出力：5W(High)/1W(Low)

変調方式：リアクタンス変調

## ■受信部

受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン方式

受信感度：-12dB $\mu$ (Typ.) 12dB SINAD時

スケルチ感度：-12dB $\mu$ (Typ.)

低周波出力：700mW(Typ.)：内蔵スピーカー、8Ω、10%歪時

300mW(Typ.)：外部スピーカー、4Ω、10%歪時

※ 定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。



# チャンネルリスト 10

## ご参考

セットモードで「チャンネル表示」を「4d」に設定したとき、チャンネル番号は4桁で表示されます。(P.18)

例：78A⇒1078、78b⇒2078


CH	周波数(単位：MHz)		CH	周波数(単位：MHz)		CH	周波数(単位：MHz)	
	送信	受信		送信	受信		送信	受信
01	156.050	160.650	60	156.025	160.625	WX1	受信専用	162.550
02	156.100	160.700	61	156.075	160.675	WX2	受信専用	162.400
03	156.150	160.750	62	156.125	160.725	WX3	受信専用	162.475
04	156.200	160.800	63	156.175	160.775	WX4	受信専用	162.425
05	156.250	160.850	64	156.225	160.825	WX5	受信専用	162.450
06	156.300	156.300	65	156.275	160.875	WX6	受信専用	162.500
07	156.350	160.950	66	156.325	160.925	WX7	受信専用	162.525
08	156.400	156.400	67	156.375	156.375	WX8	受信専用	161.650
09	156.450	156.450	68	156.425	156.425	WX9	受信専用	161.775
10	156.500	156.500	69	156.475	156.475	WX10	受信専用	163.275
11	156.550	156.550	71	156.575	156.575			
12	156.600	156.600	72	156.625	156.625			
13	156.650	156.650	73	156.675	156.675			
14	156.700	156.700	74	156.725	156.725			
15★	156.750	156.750	75★	156.775	156.775			
16	156.800	156.800	76★	156.825	156.825			
17★	156.850	156.850	77	156.875	156.875			
18	156.900	161.500	78	156.925	161.525			
19	156.950	161.550	78A	156.925	156.925			
19A	156.950	156.950	78b	受信専用	161.525			
19b	受信専用	161.550	79	156.975	161.575			
20	157.000	161.600	79A	156.975	156.975			
20A	157.000	157.000	79b	受信専用	161.575			
20b	受信専用	161.600	80	157.025	161.625			
21	157.050	161.650	81	157.075	161.675			
22	157.100	161.700	82	157.125	161.725			
23	157.150	161.750	83	157.175	161.775			
24	157.200	161.800	84	157.225	161.825			
25	157.250	161.850	85	157.275	161.875			
26	157.300	161.900	86	157.325	161.925			
27	157.350	161.950	87	157.375	157.375			
28	157.400	162.000	88	157.425	157.425			

★ Lowパワー専用のチャンネルです。

# 11 困ったときは

## ■トラブルシューティング

下記の現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	電池の消耗	バッテリーパックを充電する	P.6
	バッテリーパックの接触不良	バッテリーパックを入れなおす	P.2
スピーカーから音が出ない	スケルチレベルが大きすぎる	スケルチレベルを雑音が聞こえだす直前に設定する	P.10
	音量が小さすぎる	適切な音量に調整する	P.10
	スピーカー部分に水がたまっている	アクアクェイク機能を使ってスピーカー部分から水を抜く	P.12
送信できない、または送信出力のHighパワー(5W)を選択できない	受信専用・Lowパワー専用のチャンネルを選択している	チャンネルを変更する	P.8
	電池の消耗	バッテリーパックを充電する	P.6
	送信出力がLowパワー(1W)にセットされている	[Hi/Lo]を短く押してHighを選択する	—
表示画面が動かない	ロック機能が動作している	[  ]を長く(約1秒)押して、ロック機能を解除する	P.11
スキャンが動作しない	フェイバリットチャンネル(スキャン対象チャンネル)設定がされていない	フェイバリットチャンネルに設定する	P.14
ピーブ音が鳴らない	セットモードでピーブ音がOFFに設定されている	セットモードでピーブ音をONに設定する	P.17

※ バッテリーパックを充電しなおしても電源が入らない場合や運用時間が短い場合は、バッテリーパックが故障している、または寿命に達していることがあります。(P.5) お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

## ■アフターサービスについて

「■トラブルシューティング」(P.23)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

### 保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

### 保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

### ●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

### ●弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

#### お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

電子メール：support\_center@icom.co.jp

アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

高品質がテーマです。